

新しい人の流れを作りたい

愛南町初の「地域おこし協力隊」

森裕之さんの挑戦

ツガニ

皆さんは「地域おこし協力隊」を知っていますか。

平成29年4月、愛南町では初めてとなる「地域おこし協力隊」の隊員として森裕之さんが緑地域に移住してきました。

愛南暮らし1年目。緑地域を拠点に町内外を駆け巡り、町の宝さがしに奔走する森さんを追いました。

僧都川でツガニ漁を行う森さん。緑地域で昔から食べられてきたツガニ。森さんは、愛南ツアーで町外から来た人たちに提供して、好評を得ていると言います

「当たり前」が魅力的

「愛南町は良いところがたくさんありますよ」。森裕之さんが目を輝かせて言います。森さんは横浜生まれ、横浜市議会議員や東温市での集落支援員を経験し、平成29年4月に「地域おこし協力隊」の隊員として緑地域にやってきました。

「もともと地域づくりの仕事がしたいという思いがあって、父の故郷である東温市に移住しました。そこで移住者の受け入れ相談などを手がけるうちに愛南町と縁ができて、そのまま来ることになったんです」。森さんは移住の経緯をそう振り返ります。

「愛南に来て感じたのは、思ったほど田舎じゃないということです。近くにスーパーなどがあって日用品を手に入れるのは都会と同じくらい簡単です。その上で食べ物美味しい、すぐ自然に親しめる、というのは、ここに住んでいる人には当たり前のことかもしれませんが、外から見るととても魅力的です」。



「まるごと緑」の松田昌治副会長（右）と寺岡等さん。産業振興部では交流の場づくりの一環でピザ窯作りを進めています



「まるごと緑」の運営会。「あんまり先のこと考えよったら死んでしまうぞ（笑）」冗談も交えながらイベントの反省や次の活動について話し合っています



「まるごと緑」の宮本秀樹会長。「森さんと『まるごと緑』が互いの活動を補い合っ



と『まるごと緑』が互いの活動を補い合っつ相乗効果を得ている」と話します
「まるごと緑」産業振興部会の木村みさ子さん（左）と「まるごと緑」の活動を支える吉田かおるさん。「森さんは緑にきて少しずつ野生化している」と笑顔で歓迎します

地域おこし協力隊

「地域おこし協力隊」は、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方に地域外の人材を積極的に誘致して、定住・定着を図ることで地域力を維持・強化しようという国の制度です。隊員の任期は最長3年。その間、地域で生活し、各種の地域協力活動を行います。総務省によると平成28年度には、全国886の自治体で3,978人の隊員が活動し、これまでに任期が終了した隊員の約6割が同じ地域に定住しています。（平成29年度地域おこし協力隊の定住状況等に係る調査結果）

森 裕之 （もり・ひろゆき）

1970年、神奈川県生まれ。
拓殖大学・大学院で国際関係、国際協力を学ぶ。
学生時代はインドネシアの島々を放浪。
政策提言NGO、衆議院議員公設秘書を経て、横浜市議会議員を2期務める。
2015年8月から東温市での集落支援員として地域づくりに取り組む。2017年4月から愛南町「地域おこし協力隊」として活躍している。

「まるごと緑」

緑地域のいいところを次世代に

森さんの活動拠点となっているのが、緑地域の良さを次世代に引き継いでいこうと平成28年6月に発足した「まるごと緑」という住民グループです。

「もともと緑地域には青年団や老人クラブなど様々な団体が個々に活動していましたが、それを地域全体の活動と捉えて、団体をまとめる組織を作ろうということになったのです」。そう話すのは「まるごと緑」の宮本秀樹会長。

「まるごと緑」では地域課題解決部、産業振興部、移住観光部の3つの部会を作り、地域の課題解決の仕組みづくりや特産品開発、拠点づくりなどに取り組んでいます。

「理想は、緑に住んでいる人が緑で仕事ができる地域。そのために活動を継続したい」宮本会長は力を込めます。





人が人を連れてくる

平成29年8月。地域の資源を有効活用したいと考える森さんは2度にわたって試験的に1泊2日の愛南ツアーを行いました。参加者は合わせて27人、そのうち20人が町外の人でした。プログラムには、海遊びや僧都川でのカヌー体験などを盛り込み、愛南の自然をPR。媛っこ地鶏のバーベキューを通して「まるごと緑」を中心とした地域の人たちとの交流も盛り込みました。「結果は大成功。想像していた以上に喜んでもらえました」。(森さん)



「子どもたちに本物の音を届けたい」森さんの思いに応じて中西弾さんのミニバイオリンコンサートが実現しました。子どもたちは目を輝かせて美しい音色に耳を傾けました(写真は緑小学校)

の「一色環たまさんは、「愛南の自然や人のぬくもりにとっても感動した」と言います。「ぜひ愛南町を紹介したい」と11月には福岡市在住のヴァイオリニスト中西弾だんさんを連れて再び愛南町を訪れました。

森さんは「まるごと緑」と連携して秋の愛南ツアーを企画。一色さんとツアーの日程を調整するうちにミニコンサートの話が持ち上がり、緑小学校、僧都小学校、城辺小・中学校で中西さんのミニコンサートが実現しました。「とてもきれいな音だった」「一瞬で引き込まれた」「感動した」子どもたちからは口々に感想が寄せられました。

ヴァイオリニストの中西弾さんに愛南町を満喫してもらおうと、森さんたちが用意したのは秋の愛南の山歩き。といてもただの山歩きではありません。

昨年狩猟免許を取得した森さんは、師匠と仰ぐ木村俊介さん（「まるごと緑」移住観光部長）と吉田裕史さん（同副部長）と共に山の状態や命のあり方について学んでもらおうと狩猟に同行する「ジューガイツアー」を企画しました。



命のあり方学ぶ 「ジューガイツアー」

「緑地域にとつて猪や鹿などによる農作物の被害は悩みの種になっていきます。でもそれも見方を変えれば資源にならないか、そう考えたのが『ジューガイツアー』を企画するきっかけでした」。(森さん)



「ジューガイツアー」に参加した中西弾さん（左から2番目）は「近くで猪の唸り声が聞こえたときには一気に緊張感が高まった」と興奮ぎみに話しました

今回、初めて行った「ジューガイツアー」では西柳や檜床の山に入り、2時間ほどの間に2頭のイノシシを捕獲しました。



左/いざ、大物捕りへ。河内晩柑の畑を抜けて山に向かいます。右/山の中で神経を研ぎ澄ませて獲物待つ森さん



人の流れを作りたい

「まるごと緑」と森さんは11月末にも東京の旅行会社と協力して2泊3日のツアーを実施しました。森さんは「まだ試験段階ですが、愛南町の宝を探しながら、それを活用した新しい人の流れを作りたい」と精力的に取り組みます。

吉田裕史さんは「森さんが地域の人と外の人をつないでくれるので『ジューガイツアー』など、これまでやりたいと思っていたことができなかつたことが実現できる」と歓迎します。



「ジューガイツアー」で捕獲したイノシシを前に。左から一色環さん（西条市）、中西弾さん（福岡市）、吉田裕史さん、森裕之さん、木村俊介さん。

まるごと緑通信

緑地域の人たちに「まるごと緑」の動きを伝えようと10月から森さんが中心になって「まるごと緑通信」の発行を始めました



「地域おこし協力隊」森裕之さんの挑戦が続きます。

「やりたいことはたくさんある」という森さん。「でもそれは自分だけではできないし、一人でもやっても意味がありません。『まるごと緑』や地域の人たちと協力して持続可能な地域づくりをチャレンジします」。



11月末に東京の旅行会社と協力して行った愛南ツアーで媛っこ地鶏の解体を披露する吉田裕史さん。このツアーでは首都圏から16人が愛南町にやってきました。